

子どもの声 政策に反映を

広島叡智学園高の黒木さん

広島県大崎上島町の広島叡智学園高3年の黒木恵さん(18)が、首相の諮問機関で、子ども関連の問題を話し合う「子ども家庭審議会」の専門委員として活動している。同審議会を設置することも家庭庁によると、委員や臨時委員を含め唯一の10代で最年少(2024年4月1日時点)。高校生の視点で、若者や子どもの意見を国や自治体の政策に反映させるアイデアを提言している。

(渡部公揮)

専門委員は、委員とは過疎地域と都市部の教育別に専門事項の調査のため格差などの問題を国が主め首相から任命される。催するイベントで発信し黒木さんは23年4月に就任。離島の高校生として局から就任の打診があつ



専門委員会で発表したアンケート結果の資料を説明する黒木さん

国の審議会 最年少委員として提言

た。大学教員や法人代表たち計12人でつくる基本政策部会の専門委員会に所属し、これまでオンラインを含めて9回の会議に出席。子ども・子育て政策の指針「子ども大綱」の策定や、同庁の子ども向けの意見募集事業を巡り、意見を出してきた。

24年2月の会議では、子どもの意識を知ってもらうため、出身地の府中市の児童生徒に実施したオンラインアンケートの結果を発表。752人から得た回答を分析したところ、国の政策などに対して「意見を言う場が限られる」「考えをどう伝えていいかが分からない」との声が目立ったという。

会議で黒木さんは、身近な学校や地域が主体となつて意見をくみ上げる体制づくりの必要性を強調。その後の議論に生かされたという。黒木さんは「子どもが意見を率直に言え、社会参画する機会が増えるように協力したい」と意気込んでいる。